

渥美国際交流奨学財団 設立 5 周年記念事業

■■■■■ 設立 5 周年記念出版

「日本で見つけた宝物：留学生の報告」

日本の心と文化を多方面からさぐる！

この激変の時代にグローバル化への道を計りかねているように見える日本や日本人にとって、青春を賭して日本の大学院で学んだ留学生たちの報告は、興味深い示唆を与えてくれます。

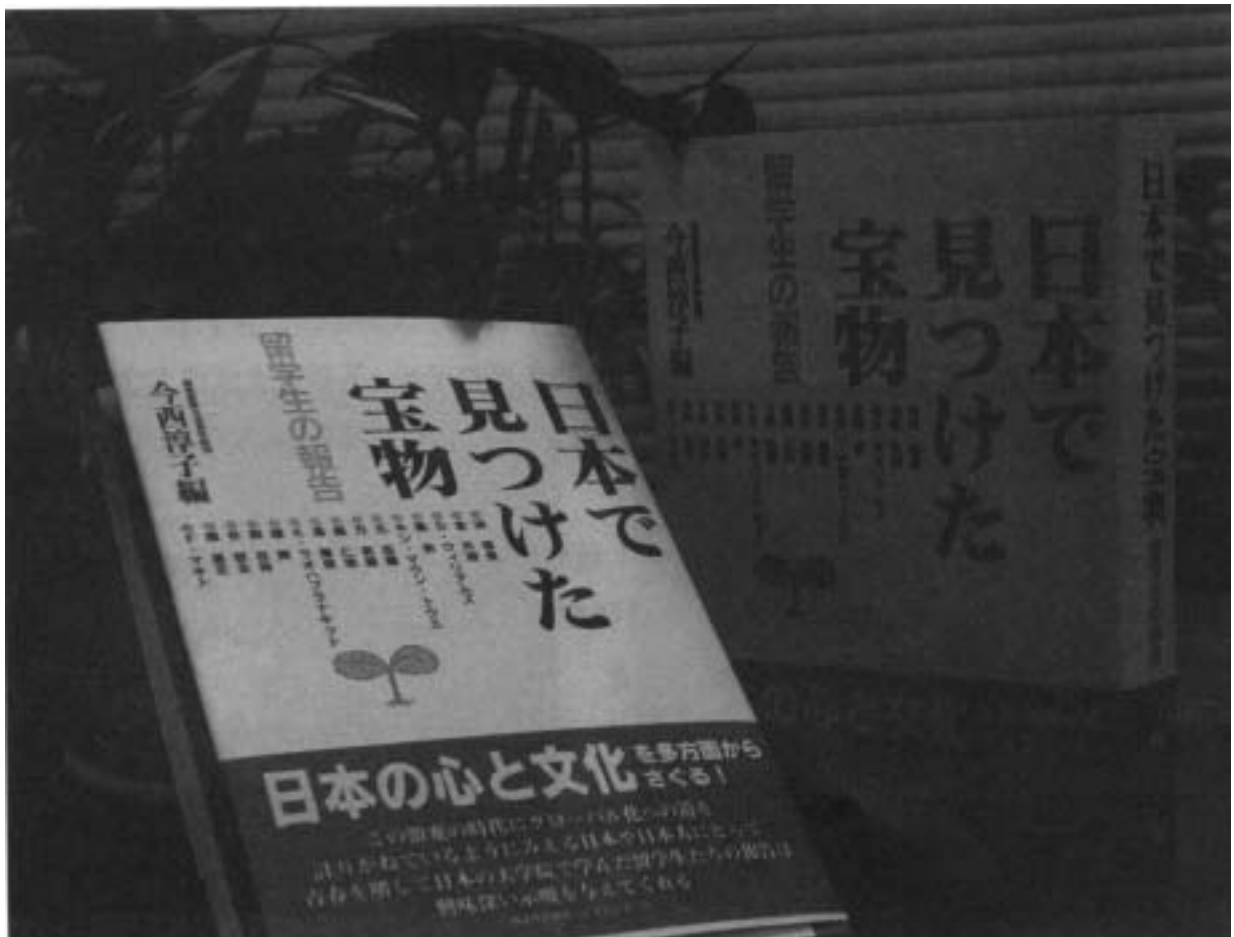
編者：今西淳子

著者：洪徳俊、金外淑、D. ウィリアムズ、葉会、キン・マウン・トウェ、王岳鵬、方美麗、羅仁淑、高偉俊、K. ラオハブラナキット、趙青、郭在祐、朴哲主、南基正、F. マキト

発行：講談社出版サービスセンター

留学とは、執筆者のそれぞれが自分のアイデンティティを求める旅であったことが窺えると思うます。さまざまな苦労や異文化体験を経て、それぞれが自分なりの宝物を発掘していった過程が読み取れるのではないかと思います。

母国の文化か日本の文化かの二者択一ではなく、両者を冷静に見つめ、さらに高い価値を導きだそうとする試みを見出すこともできると思います。(編者エピローグより)



新刊紹介今西淳子編「日本で見つけた宝物：留学生の報告」

鈴木 泰

本書は、日本の大学院で博士号を取得しようとして学び、渥美国際交流奨学財団から奨学金をうけた、アジアを中心とした7ヶ国15名の留学生たちの留学報告をまとめたものである。本書の執筆者の中には、最近大地震で被災した台湾からの留学生も二人いる。一人は、紹介担当者の指導学生の方美麗さんである。彼女は、台北の勤務先の寮に住んでいたが、震災で電気などライフラインが使えなくなり、一時故郷の台南に避難したと聞いている。私事にわたる話が続いて申し訳ないが、私には、台湾からの留学生で博士号を取った指導学生がもう一人いる。彼女は台中にいたため、安否が大変に心配されたが、電話は混みあっていたが、やきもきしていた。そこになんというところか、本人から直接電話が入って、無事であるむね知らせてきたのである。私がきっと心配しているだろうと考えて、わざわざ自分の安否を知らせてくれたのである。その時、指導していた時には知りえなかった教師に対して学生の心遣いを感じてありがたく思ったのだが、教師に対する同じ様な心遣いが、方美麗さんの「雑草の力」と、もう一人の台湾からの留学生、洪徳俊さんの「博士への道」の2編には随所に感じられた。また、二人の日本での留学生生活は10年にもおよび、その間も決して平坦な道ではなかったことは、二人のレポートに詳しく述べられており、身につま

される。しかし、それを黙々と努力することによって、あるいはたくましく乗り越えていったさまが生き生きと描かれているのには感動させられる。

本書は大変バラエティーに富んでいて、勉学報告が中心であるが、博士論文の紹介もあれば、日本論や日本にたいする提言もあるといった具合である。また、紹介されている博士論文の内容は実に多岐にわたっているが、その中で国文学にかかわりありそうなもののテーマをかかげれば、温泉の歴史、日本語における「断り」、画家文清、源氏物語などがあり、いずれも日本人には取りえない切り口のシャープさ、また実証の手堅さを感じさせる。ただし、博士論文の内容の紹介にとどまらず、留学生としての肉声をもっと聞きたかったというレポートもいくつかある。

アジア諸国は地震といったような天災がなくとも、経済的、政治的に厳しい局面を迎えているところが多い。当然いろいろな面で日本は期待されている。そうした中で本書の価値は大きい。留学の動機についても、実に様々なものがあることを知らされるし、また留学前の動機や日本観が迎える側次第でいかに変わるものであるかも知れられる。また、留学生たちが日本での留学体験をどのようにとらえたかは、今後留学生を指導していく上で、反省の材料を与えてくれるとともに、多くの示唆を与えてくれるだろう。

(1999年7月15日 46判380頁 定価1,680円 講談社出版サービスセンター)

[すずき・たい お茶の水女子大学教授]